

Ambientec

pressmilano
yuki yamamoto
Media Contact
pressmilano | 山本幸
info@pressmilano.com
www.pressmilano.com
t. +39-392-5979612(Italy)

幻の名品が現代の技術で蘇る！ 倉俣史朗 SAMBA-M 復刻版 アンビエンテックより発売

コードレス照明ブランド、株式会社アンビエンテック（横浜市神奈川区・代表取締役社長 / 久野 義憲）は、東京の「ギャラリー田村ジョー」と協業し、今年で没後30年を迎えた倉俣史朗（1934～91年）デザインによるオブジェ、**SAMBA-M**（1988年）を最新技術で蘇らせ、全世界に向けて発売します。

<https://ambientec.co.jp/jp>

エレガントなコードレス照明を得意とするブランド、アンビエンテックは、独自の卓越した技術によって、倉俣史朗のワイングラスの形をした赤く光る感動のオブジェ、**SAMBA-M** を蘇らせました。



SHIRO KURAMATA PROJECT / SAMBA-M 2021 photo: Nacása & Partners.

「ギャラリー田村ジョー」企画・アンビエンテック製造・販売

倉俣史朗没後30年にあたる今年、クラマタデザイン事務所監修のもと、田村昌紀氏とジョースズキ氏が設立した「ギャラリー田村ジョー」の企画の1つとして、グラスに赤い光を灯した **SAMBA-M** がアンビエンテックによって復刻されました。

倉俣史朗とは？

倉俣史朗氏は、20世紀を代表するデザイナーの一人です。彼の発想はシュールレアリズムや現代美術の影響を強く受けたもので、効率やマーケティングを重視した現代主流のデザインとは対極にある、**自由な精神と遊び心**に満ちています。合理的な考えを積み重ねた結果生まれたものでなく、多くの倉俣作品と同様に**“インスピレーション”**から生まれた**SAMBA-M**は、大量生産に適した**プロダクトとアート**の間に存在するデザインの魅力に溢れています。



SHIRO KURAMATA PROJECT / SAMBA-M 2021 : Photo: Hiroshi Iwasaki

1988年「IN-SPARATION」展 オープニングで見たサプライズ

SAMBA-M は、1988年に東京、パリ、ミラノを巡回した展覧会、「IN-SPARATION」でお披露目されました。既存の概念にとらわれない新しい照明デザインを提案する、国内外の20組以上の若いクリエイターが参加した同展には、まだ無名だったロン・アラッド、ザハ・ハジドなども参加。倉俣が監修・会場構成を担当し、**SAMBA-M** を出品しています。そのオープニングパーティで倉俣が、シャンパンを注ぎ赤く点灯させてゲストを驚かせた、というエピソードが残っています。

アンビエンテック独自の技術によって33年ぶりに蘇る！

SAMBA-M は、発表された当時の最新技術であった赤色発光ダイオードをワイングラスの形をしたガラスで包んだオブジェでポータブルな「あかり」でしたが、製造が困難で大変高価だったため極少数が世に出ただけでした。今回の復刻版は、アンビエンテック独自の設計開発技術によるコードレスや防水の機能、リチウムイオン電池による長時間使用で使い勝手を大幅に向上し、33年前の感動が身近に使えるプロダクトとして新しく蘇ったのです。

* 繊細なガラス製のため取り扱いには十分な注意が必要です。

アンビエンテックの照明は、
独自のLED技術と融合した本質的で詩的なフォルムを持つ「ノマドなオブジェ」です。
久野義憲氏が水中撮影用のプロ用照明の分野で培ってきた
豊富な経験から得た技術的専門知識がデザインに反映されています。

「今回SAMBA-Mを復刻させることができ大変嬉しく思っています。
この復刻には、私たちの得意とする技術の全てを注ぎ込み、
大きな責任を伴うプロジェクトとなりました。
倉俣史朗氏の西洋のデザインとも日本の伝統的なそれとも
大きく異なる独創的な才能を守り、伝えることが課題でした。」

アンビエンテック代表取締役社長 久野義憲



Salone del Mobile. Milano

Salone del Mobile. Milano / Euroluce 2021出展決定！

アンビエンテックは、2021年9月5日から10日までミラノで開催される
第59回ミラノサローネ/ エウロルーチェ に初出展し、SAMBA-Mを新作コレクションとともに発表します。



SHSIRO KURAMATA PROJECT / SAMBA-M 2021 Photo: Hiroshi Iwasaki

プレスのお問い合わせ
pressmilano | 山本幸

t. +39-392-5979612
info@pressmilano.com
www.pressmilano.com

製品に関するお問い合わせ
株式会社アンビエンテック
Domestic sales | 内田理美

t. 045-441-0082
press@ambientec.co.jp
www.ambientec.co.jp

プロフィール

倉俣史朗 (1934~1991年)



倉俣史朗は、20世紀の日本で最も重要なデザイナーである。彼の、西洋のデザインとも日本の伝統的なそれとも大きく異なる独自のスタイルが、後のデザイン界に与えた影響は計り知れない。倉俣は、空間と家具デザインを中心に、1960年代半ばから亡くなる1991年まで活動している。手がけた空間の大半は店舗で、現存するものはごく僅か。全世界で109店のイッセイミヤケのブティックを手がけている。

一方家具や照明は、シュールレアリズムや現代美術からの影響が強く、浮遊感、透明性、儂さ、独特の素材使いなどが大きな特徴。効率やマーケティングを重視した現代に多いデザインとは対極にある。イタリアのカッペリーニ社などから家具も発売されているが、大量生産に向かないアートとプロダクトの中間の存在が殆どである。

代表作は、エキスパンド・メタルを溶接で繋いだ「How High the Moon」や、透明なアクリルの中に、バラの造花を封じ込めた「ミス・ブランチ」。どちらも高い職人の技術が用いられているが、そうした痕跡を残さないのが倉俣流だ。エトレ・ソットサス率いるメンフィスの活動にも参加している。

また、パリのポンピドーセンター、ニューヨーク近代美術館 (MoMA)、バーゼルのヴィトラ・デザイン・ミュージアム、ロンドンのヴィクトリア & アルバート博物館など世界の主要な美術館で、彼の手掛けた家具・照明がパーマネントコレクションとして収蔵されている。また、今年末には香港でオープンするデザインミュージアムM+で、1988年にデザインした新橋の寿司屋「きよ友」が移設され常設展示される予定。

ギャラリー田村ジョー



会長の田村昌紀(株式会社センプレデザイン会長)と、ジョースズキ(デザインプロデューサー・文筆家)が共同で運営するデザインギャラリー。倉俣の代表作であるHow High the Moonなどの復刻・販売を行う。SAMBA-MIは、同ギャラリーの企画のひとつ。

田村昌紀は、実業家の父親、デザイナーの母親のもとに生まれ、自身も経営者とデザイナーの二つの顔を持つ。アメリカのクランブルック・アカデミーで学び、帰国後は日本のインテリア界に新風を吹き込む。ライフスタイルショップ、センプレデザインは自身のセレクトにより、才能ある若手デザイナーのプロダクトが、日本で最初に販売されるケースも多い。

ジョースズキは、国際的な機関投資家からの転身。海外デザイナーや家具メーカーの社長インタビューを得意とし、著書『名作家具のヒミツ』はamazonでジャンル1位を獲得。海外デザイナーとのモノ作り、イベントを主催するなど、行動するジャーナリストでもある。美術品収集歴は35年以上で、美術館・東京オペラシティアートギャラリーの立ち上げに関わった。